

島根県東部雲南市におけるニホンリスの発見

安 藤 誠 也*・小 沼 仁 美**

Discovery of *Sciurus Iis* in Unnan City, Eastern Shimane Prefecture

Seiya Ando and Hitomi Onuma

Abstract : In the Red List of the Ministry of the Environment, the Japanese squirrel (*Sciurus Iis*) in the Chugoku region is classified as an endangered local population (LP). In the Red Data Book of Shimane Prefecture, the Japanese squirrel has also been classified as Data Deficient (DD), but in recent years it has been confirmed in Ounan Town near the border with Hiroshima Prefecture.

We have recently collected a dead Japanese squirrel in Unnan City, located in the eastern part of Shimane Prefecture, and this is the first specimen in the prefecture. We also conducted a habitat survey in the surrounding forests and compiled the results.

Keywords : Japanese squirrel, Shimane Prefecture, Red Data Book

1. はじめに

中国地方のニホンリスについては国のレッドリストにおいて、絶滅のおそれのある地域個体群とされている（環境省, 2019）。しまねレッドデータブックにおいては情報不足（DD）とされてきた（島根県, 2014）が、2019年に広島県との県境に位置する邑南町において、ニホンリスの生息が確認されている（田中ほか, 2020）。また、本種が絶滅したとされていた広島県においても近年、複数地点での発見が相次いでいる（中国新聞, 2021；原田, 2021）。

著者の一人、小沼は2020年10月10日に車両を運転中、島根県雲南市において、交通事故死したと考えられるニホンリス1頭を採取した。本個体は島根県内で採取された初のニホンリスとして剥製化され、島根県立三瓶自然館に保管されている。本稿は当該個体の記載と共に、斃死体発見箇所周辺の山林で実施したニホンリスの生息確認調査の結果について報告する。

2. 採取個体の種同定・計測

本個体は腹部の体毛が白色であること、背面に赤褐色の体毛がみられる（阿部, 2005）ことからニホンリスと同定した。外性器の特徴より性別はオスで、体重140gと軽量なことから当年産まれの個体と推測される（図1）。なお、計測された体重について、採取時



図1 ニホンリス死体採取時の写真
(2020年10月10日、島根県雲南市掛合町)

* 島根県立三瓶自然館, 〒 694-0003 島根県大田市三瓶町多根 1121-8

The Shimane Nature Museum of Mt. Sanbe (Sahimel), 1121-8 Tane, Sanbe-cho, Ohda, Shimane, 694-0003, Japan

** 島根県中山間地域研究センター, 〒 690-3405 島根県飯石郡飯南町上来島 1207

Shimane Prefecture Mountainous Area Research Center, 1207 Kamikijima, Iinan, Shimane, 690-3405, Japan

の死体の状態は新鮮であり、出血していたもののその量はごく僅かであったため、生時とさほど変化はないと思われる。以下に本個体の計測値を示す。

性別SEX オス

頭胴長HB (mm) 151

尾長T (mm) 136

後足長HFs_u (mm) 52 (爪あり 56.5)

耳長E (mm) 24.5

体重BW (g) 140

3. 周辺の環境

本個体が採取された場所は島根県雲南市掛合町（図2）にある二車線道路上であるが、詳細な場所については絶滅危惧種であることから公表しないものとする。採取地点は標高410mであり、周辺環境は標高400～650mの里山環境で、道路周辺の河川の沖積地には田畠や家屋が点在し、周囲の山地にはスギやヒノキの人工林や、モウソウチク、ハチクの竹林、ヤブツバキクラス域代替植生であるアカマツ群落からなる二次林が見られる。二次林は高木層にアカマツ、ソヨゴ、リョウブ、コナラ、アベマキなど、低木層はアオキ、クロモジ、アセビ、ヒサカキ、ヤブツバキなどが優占している。調査地周辺はマツ枯れの影響は少なく、尾根沿いを中心にアカマツが分布している。

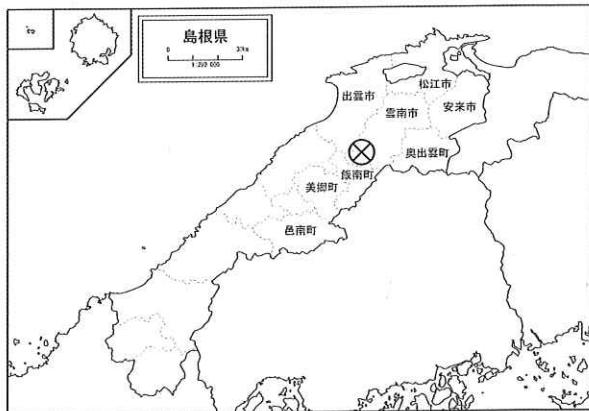


図2 ニホンリス死体採取地点(○の記号付近で発見)

4. 生息確認調査

採取された個体以外にもニホンリスが生息しているのかを確認するため、死体採取地点からおおよそ半径500mまでの範囲のアカマツ林を対象に、球果（マツボックリ）への食痕確認を行った。調査は安藤・小沼の2名で、2020年10月21日、11月6日・9日・12日、12月5日および2021年9月30日、10月11日、11月8

日に行った。その他、個体の目視、樹上の巣、糞の有無の確認を行った。また、齧歯類の食痕が確認された地点においては、自動撮影カメラ（Filed Note DUO、有限会社麻里府商事）を設置し、ニホンリスの撮影を試みた。

5. 結果および考察

齧歯類によるアカマツ球果の食痕については、死体採取地点周辺の山林内で以下の3地点において特定のアカマツ下で集中的に確認された。地点1は死体採取地点より東北東へ280mの標高500mの尾根上に位置し、アベマキやコナラなどの落葉高木に混じってアカマツが点在している（図3）。地点2は死体採取地点より東南東へ300mの標高520mの尾根上に位置し、手入れの悪いヒノキの人工林内にアカマツが点在している（図4）。地点3は死体採取地点より南東へ410mの標高520mの尾根上で、アベマキやコナラなどの落葉高木に混じってアカマツが点在している（図5）。

このうち地点1においては、アカマツの地上から約15mにある樹幹から伸びる枝の付け根付近に、ニホンリスの可能性がある巣を確認した（図6）。巣の外装はたくさんの小枝を集め形成されている（図7）。しかし、下方からの撮影にとどまり、巣の全容を確認できなかったことから鳥類のものである可能性も否定できない。

地点1から地点3で動物に摂食されたアカマツ球果は全てエビフライ状を呈していた（図8）。ニホンリス以外にこのような食痕を残す哺乳類として、アカネズミとムササビが知られているが、地面に散在する齧り取られた鱗片の形状は1枚ずつきれいに残っており（図9）、アカネズミの可能性は除外した（田村、2011）。しかし、食痕のみではムササビとの見分けが困難（田村ほか、2007）なため、目視による個体の発見、糞やオニグルミの食痕の有無などを調査したが確



図3 地点1



図4 地点2



図7 図6を高倍率で撮影



図5 地点3



図8 齧歎類とみられる食痕のついたアカマツ球果
(矢印の箇所)



図6 地上高15m位にあるニホンリスによる可能性がある巣
(矢印の箇所)



図9 齧り取られた球果の鱗片(矢印の箇所)

認されなかった。また、これらの3地点全てに自動撮影カメラ (Filed Note DUO) をアカマツの樹幹に向けて設置（地点1・地点2は2020年11月～12月、地点3は2021年9月～11月）したが、ニホンリスは撮影されなかった。

以上のことから、アカマツ球果の食痕はムササビによる可能性も考えられる。しかし、5mmほどの大きさで丸いムササビの糞を確認できなかったことから、ニホンリスの可能性もあるため、今後も継続して調査を行う必要がある。

今回、死体を採取したことにより雲南市域にニホン

リスが生息している可能性が示された。島根県におけるニホンリスの確認例としては他に、2019年の邑南町域における確認例（田中ほか、2020）、本種の生息が確認されている鳥取県（鳥取県、2012）と岡山県（岡山県、2020）との県境付近での目撃情報（山口県、2019）がある。島根県の東部に位置する雲南市へは、鳥取県や岡山県より分布を広げてきた個体群が存在する可能性がある。さらに、邑南町での発見例があることから、飯南町や美郷町など、隣接する市町においても生息確認を行っていく必要がある。

また、これまで絶滅したとされてきた広島県（広

島県, 2011)においても、2020年に庄原市と神石高原町での死体発見例(中国新聞, 2021; 原田, 2021)や、福山市において自動撮影による確認例(中国新聞, 2021)が相次いでいる。いずれも広島県東部に位置し、岡山県や鳥取県と隣接しているため、近年、広島県内に分布を拡大させたものと考えられる。

以上のことから、中国地方においては、東部から次第に西部へニホンリスの分布が拡大している可能性が示唆される。

謝 辞

本稿を執筆するにあたり、森林総合研究所多摩森林科学園の田村典子博士には、ニホンリスの巣についてご教示して頂きました。この場を借りてお礼申し上げます。

参 考 文 献

阿部永(監修), 2005. 日本の哺乳類. 改訂版. 東海大学出版会,

- 206pp.
- 中国新聞, 2021. ニホンリス庄原で確認. 中国新聞2021年1月20日朝刊24面.
- 原田樹雄, 2021. 庄原市西城町でニホンリスを採集. 比婆科学271: 42-44.
- 広島県, 2011. 改訂・広島県の絶滅のおそれのある野生生物. レッドデータブックひろしま. pp.51.
- 環境省, 2019. 環境省レッドリスト2019. 別添資料2【哺乳類】. pp.2.
- 島根県, 2014. 改訂・島根県の絶滅のおそれのある野生動植物. しまねレッドデータブック2014(動物編). pp.34.
- 田中 旭・安藤誠也・田村典子, 2020. 島根県西部におけるニホンリスの生息確認. 島根県立三瓶自然館研究報告18: 63-66.
- 田村典子・松尾龍平・田中俊夫・片岡友美・広瀬南斗・富士本八央・日置佳之, 2007. 中国地方におけるニホンリスの生息状況. 哺乳類科学47: 231-237.
- 田村典子, 2011. リスの生態学. 東京大学出版会, 211pp.
- 岡山県, 2020. 岡山県版レッドデータブック2020. pp.43.
- 鳥取県, 2012. レッドデータブックとつり改訂版. pp.29.
- 山口県, 2019. レッドデータブックやまぐち2019. 山口県の絶滅の恐れのある野生生物. pp.38.